

【榎本館長からのメッセージ】

昨年この時期に、東京では54年ぶりの積雪がありました。もしかして今年も雪が？！・・・結果は大外れ！逆に11月末だというのに外は24℃もあり、桜が狂い咲きするような気候で、去年とは違う方向で今年も異常気象に見舞われています。こんなときに一番気をつけたいのは体調！！急な寒暖差や湿度変化は、体全体に負荷をかけ、体調を崩す原因となります。お気を付け下さいませ。

さてそんな気候の安定しない中、夢の島では今月も、『ウィークエンドコンサート』『ラン展』『冬の夜間開館』『ライトアップ』などを行います。忙しくなかなかお時間のないこの時期ですが、ほっと一息つきにいらっしやいませんか。植物に囲まれて心緩やかに過ごしていただけますよう、皆様のお越しを心よりお待ちしております。

館長



季節イベントの紹介（イベント・展示担当：関）

12月も盛りだくさんの企画をご用意して皆様のご来館をお待ちしています。貴重なランの原種を展示する「夢の島ラン展」。「熱帯のクリスマス展」では、クリスマス関連の植物が大集合の「クリスマスを彩る植物展」も開催！「冬の夜間開館 2017」では夜の温室開放、滝の上コンサート、夢の島BARをお楽しみください。植物館で暖かい時間をお過ごし下さい。

【12月の企画展】

- 「夢の島ラン展」(11/28～12/24)
- 「熱帯のクリスマス展」(12/5～12/24)
- 《季節イベント》「第14回子どもしぜん科学大賞 作品展示」(11/28～12/10)
- 「ウィークエンドコンサート」(12/2、16)
- 「ハーブの学校」(12/3)
- 「森の学校」(12/9)
- 「冬の夜間開館 2017」(12/9)
- 「Xmas リース講習会」(12/9、10)
- 「第14回子ども絵画コンクール受賞者発表&表彰式」(12/16)
- 「Xmas アレンジメント講習会」(12/17)
- 「クリスマススペシャルコンサート」(12/23)
- 「新年を飾るフラワーアレンジメント講習会」(12/24)
- 「第14回子どもしぜん科学大賞 作品展示」(11/28～12/10)

★詳しくはイベントチラシまたは夢の島熱帯植物館にお問い合わせください。

温室内で見られる植物の紹介（植物館植栽担当：横平）

温室内では、本州から約1,000キロ離れた小笠原諸島でしか見られない固有種の他に外から持ち込まれ野生化した種を紹介しています。ドームの中では、マンゴーやパイナップル等の樹木からホナガソウやセイロンベンケイソウ等の草本まで様々な帰化種を展示しています。そのうち一つジュズサンゴは、北アメリカ南部から中央・南アメリカを中心に分布している多年草です。明治中後期に諸外国から色々な植物が小笠原に輸入され、その輸入植物に付着して入ってきたものが、その後定着し、野生化したと考えられています。

草丈は30～60センチほど、原産地では3メートルにも達することもあります。草本でも、古い茎の基部は木質化します。開花は夏から秋にかけて、枝先に総状花序の花が多数つきます。花は淡紅色から白色で、一つが3～4ミリくらい大きさです。当館では、白色から外側に向かって淡いピンクに美しく色づきます。花の後に生る果実は、およそ3ミリのほぼ球形で鮮紅色をしています。数珠玉を連ねたように見えることから、名前がつけられたのでしょう。果期は秋ですが、長く枝にとどまるため花もあわせると、春から秋まで楽しむことができます。



▲ジュズサンゴ（花）  
（ヤマゴボウ科）

温室内では、この時期でも花や実が見られます



（実）▶

今月の花と実



▲サイハイデイゴ



▲カリアンドラ・ハエマトケファラ



▲ウナヅキヒメフヨウ

♪ この時期の人気者 ♪

寒い外でイルミネーションもいいですが、熱帯のドラマチックな赤花にこの時期に会いに来るのも素敵です。

ガラス温室内は湿度の高い熱帯の香り。濃い緑と赤花の組み合わせはクリスマス！

滝のしぶきが湿度を上げ、頭上では大きなヤシが葉を広げています。赤花のの違いの面白さに、ぜひお越しください。

予告：次回は12/25の発行予定です。